

REST TIME

「うきやへつ！」 ACT. 19

またしても お 訪宅 び 会長代行 岬 当麻

今回は Blowers 4 編集突貫作業のため、こちらが遅れてしまいました。空技の活動は A S の方「表街道」なのにこのような事態を招いてしまい、誠に申し訳ありません。ホントは 12 月 8 日到着を目標としていたんですが……（理由はわかるね？）

N O T E

※今回の参加・投稿物締切りは 12月25日（必着）です。結果発送は三箇日以降の予定です。年末混亂にかかる頃なので、なるべく早目に投函するようにして下さい。

※会長の菊地は今年一杯静養することとなりました。どこぞの大統領とは事情が違うので、皆さんご安心を。

今月の教育的指導！

キャラ名・機体愛称について。某ネットゲームの悪影響でしょうか、奇をてらったとしか思えない用字が目につくようになってきました。うちのゲームではそういうことで目立とうとしても絶対に逆効果なので、なるべくそういう字の使い方はやめるように。

ワープロうつのも大変だし、J I S 第 2 種漢字は避けるようにして下さい。

第三国の報道

- ニューヨーク・タイムス、1944年10月15日日曜版：連合国軍はベルリンまで317マイルのアーヘンまで進撃した。一方ソ連軍も同じく325マイルまで進撃し、ワルシャワの解放に成功している。
- ニューヨーク・タイムス、同22日日曜版：合衆国軍はその勢力地域をイサベリア近接海域周辺まで確定化することに成功した。16日にはマリアナの制圧も完了している。
- ニューヨーク・タイムス、同26日：合衆国は日本海軍を打ちのめした。一個艦隊分の敵艦船はすべて打撃を受け、多くは沈んだ。戦闘は継続中である。
- 同上：大村の飛行機工場がB-29隊によって爆撃を受け、大きな被害を受けた模様。
- ニューヨーク・タイムス、11月5日日曜版：先週連合国軍はアントワープの解放に成功した。一方ソ連軍はブダペストをドイツから奪回している。
- ニューヨーク・タイムス、11月7日：イサベリア北東方の海域で海底火山が急に活動を開始し、この影響で付近海域で作戦中の合衆国海軍第3艦隊がかなりの損害を被った模様。詳しいことはまだ不明であるが、これにより我が軍は同海域より撤退を余儀なくされたとのこと。
- ロンドン・タイムス、11月10日：先月の異常な現象で本国に召喚された合衆国海軍のハルゼー提督は、その後の査問会において虚言症が認められるということで当分予備役に編入されることが決定された。決定の際かなり口汚く委員会を罵ったことからも、提督の現役復帰は難しいと思われる。

※今回試験的に、図書館のマイクロフィルムから一部を引用してみました。このうち上の5つはモノホンの記事見出しますよ。（言われんでも他のがフィクションなのは……）

Q & A

Q：耐久オプションをつけているとき、修理するだけの金がなかったら、耐久オプションを修理せず、機体のみを修理することは可能か？

A：……一緒に修理するのが普通だと思ってたから考えてなかつたなあ……。まあいいことにしましょうか。ただ、厄介なのでその旨ちゃんと明記しておいてね。

Q：耐久オプションは、機体を変えた時「つけかえ」るのは可能ですか？

A：どうしましょ。これもいい事にしますか。ちゃんと明記しといてね。

Q：ミニウムって、「真鶴」の縮小機に使われてませんか？

③それも面白そうですが、関係ありません。あれとこれとは別の話なので。

Q：療養するキャラクターの分の参加料は要るのですか？

A：はい。事実上の「一回休み」ですから。でもって基地が攻撃を受けた際の被害判定もやるので。

公開質問状

まずは前回の答えから。

A 1：その通りです。しかし彼も一人で飛行機に乗っていては、復活は難しいかもしれません。
(イザベリア・神奈川県・遠藤誠)

A 2：「割安」「速い」「良好な運動性」「丈夫で長持ち」だから。不満なのは「まだ空母に乗せられない」ことぐらい。
(イエール・福島県・森田欽也)

A 4：私は「大空のサムライ」をSTR誌で知って、即購入した。しかし、ソロプレイを数回しただけである。(以下略)
(イザベリア・千葉県・鈴木敬純)

A 4：騎士十字章なら昔やり込みました。私のキャラは44年11月に戦死しました。
(イエール・愛知県・村松雅和)

岬：A 4は代表意見ね。全体としては持ってる人はそういないみたいですね。次は質問。

Q：今さらですが、本居こじって何者？
(イエール・大阪府・栗原大輔)

③が、ガーン!! 私です、私！ 言いませんでしたっけ？ お話書く時の習慣なんですよ。本居は国文学者のアレね。結構印象に残る姓なので。「こじ」てのは某C翼の某キャラの同人界での通称から取ったんです。

A — Strike 撃墜王発表！

☆えーとですね、一応やってみましたが、キャラシートの数値の書き方を勘違いしている人がいたようで、多分これは正確なものではないと思います。ただしトップの撃墜数については動かししようがないと思いますので、その辺お含みおきください(ませ)²。

イザベリア軍

1位	坂井二郎	71 機撃墜
2位	リュウ・シキフネ	30 機撃墜
3位	エル=プライス	23 機撃墜
4位	J. E. Warnock	18 機撃墜
5位	メルダース	10 機撃墜

イエール軍

1位	独雷安土	51 機撃墜
2位	ロバート・レーン	18 機撃墜
3位	ジュン・ランカスター	7 機撃墜
4位	ルーフ・ラングレン	6 機撃墜
5位	ヨハン・シュトラウス エディ・サンダーボルト カール・グレイストーン マーティン・オルズ	2 機撃墜

各々の部隊の性格が如実に出てますね。こういうのは上じゃなくて、下の方を比較するんですよ。イエールがいかに数で勝負しているか、これですぐにわかるってもんです。坂井さんの71機は休戦中にラバウルに行ってたのが効いてますね。そういうのを抜きにしたとき、独雷安土の51機撃墜では光ってきますねー。何せ全部ここで戦果だから。

Voice of 参加者

④パイロットたちに、保険を作つてほしい。
(要約・イザベリア・宮崎県・赤木崇敏)

岬：これは駄目です。傭兵に保険がないのは実際の世界でも常識ですし、彼らは「それなりの効果をあげて正規軍の損害を減らす」ために傭われているのですから、それができないなら戦死するかクビにされるかしかないわけです。

④(キャラの) お金の計算ぐらいはそちらでやるのが当然ではないのでしょうか？
(イザベリア・神奈川県・藏田昌弘)

岬：今後新機の追加が一切無くて、一人1機だけで、WWⅡ期だけで終わりで、んでもって隔月ぐらいになつても構わないんだったらまだ考えますが。我々が全員のやると、皆

- さんが自分の分やるとでは、どっちが早いと思います？
④ルールの改訂版が出るそうですが、キャラシートに損傷の度合いの欄をつけるといいと思うのですが。
（イエール・福島県・森田欽也）
- ③採用！こういう建設的な案は热烈歓迎。
④夜間戦闘の相手がウーフーなので、せめてオプションで安いレーダーを作ってください。
（イエール・大阪府・栗原大輔）
- 岬：うーん。これは「レンタル制」ルール導入ということで。
④Blowersは大分、完成度が上がっています。A-Strikeが喰われるかも。
（イエール・大阪府・栗原大輔）
- ③複雑な心境ですナ。あくまで主菜はASで、Blowはちょっとしたお八つのつもりなんですが……。某ゲーム系オフセ同人誌に反抗意識を刺激されて作ったモンでもあるし。
④私の場合はキャベジンの方が効果がありました。（イエール・愛知県・村松雅和）
- ③Danke!!試してみます。

レーダーのこと。

現在両軍ともオプションのレーダーはAPS-4を使用していますが、これが大変高価であるため、レンタル制を導入します。これを利用する場合、一回限りの使用料として300zgを払えば済みます。また、この場合オプション欄には他の色で半打り易く書いて下さい。よろしく。

エース列伝 今月の人：エル＝プライス中尉（イザベリア）

乗機：D 335 A-1 “Pfeil” 愛称：「Blau Blitz」

彼女はイザベリアの海軍航空傭兵の中では古顔の方である。現在自己申請で入手したD 335を駆って戦果を伸ばしつづけている。（毎回コンスタントに3機前後落としている）機体色はほぼ全体を青みがかったグレーに塗り、胴体上部のわずかな幅と翼上面のみ濃緑色に塗っている。WWII初期のドイツ空軍戦闘機のものと大差ない。

ハートの中に王冠がある絵柄をパーソナルマークとしている。キルマークは飛行機の機影に電光。この辺にも彼女の大陸人らしさが表われている。現在イザベリアPCの中では第3位の撃墜数を誇り、機体そのものも識別し易いものであることから、敵のタコ殴りに遭う日もそう遠い未来の事ではあるまい。（文責・岬当麻）

「Blowers」関係の告知

大変長らくお待たせいたしました。11月頭に発売予定だった第4号（通巻5号）が11月末に出ました。代価300円+送料175円です。

※業務連絡。業務連絡。第5号の原稿締め切りは12月25日です。郵便事故を防ぐため、20日以降の発送はなるべく速達を使用してください。

☆大佐用上級ルールについて

会長菊地の体調不良により、本ルールの導入は次期（朝鮮戦争期）スタート時まで延期となりました。誠に申し訳ありません。

☆住民投票について

by 会長“病人”菊地

賛成と反対がほぼ同数でした。反対の人は「捕虜の分まで払いたくない／面倒だ」というのがほとんど。賛成の人は「ただしそれを捨てるかどうかはプレイヤーの自由」という条件つきがほとんどでした。別に捨てちゃイカンとは言った覚えありませんが（これってやはり詭弁ですか？）。で結論ですが、やはり捕虜制度は廃止します。反対意見の強硬さが効きました。それ以前として前もって公示しなかった私も悪いし。そういうわけで今後、「これだけの戦で捕虜が出るのはおかしい」とか言ったりしないように。

代行のつぶやき

このお題は千葉県内の某サークルの会誌からパクって適当に直したものです。ところで、最近考えることって、何ですか？生徒の皆さんは試験のことでしょう。頑張って下さいね。（野郎にこんな事言われたかないか）学生に進化すると種々雑多でしょうね。バイトのこと、ウィンタースポーツのこと。でも、私はあるCMにひかれています。

そう、あのサルのコマーシャル。「バザールでござーる、バザールでござーる、NECのバザールでござーる」のアレね。あのCMいいよ。タイムリーなネタだし、言いたいことがよくわかるし、それでいてスッキリまとまるてるし。うーん。いいなあ。

あと、もう一つあるんだな。ホントはこれ、12月7日にみんなのとこへ着くように発送するつもりだったんだわ。しかし事実はこのとおり。この日は何だか知ってるやね。日本がアメリカに負けた日。……なぜかって？無理も無い。真珠湾は一般には大勝利の日になってるから。でもこれには結構盲点があんのよ。まず、ドックを無傷のままにしておいたこと。これで、損傷艦の現地修理が可能になってしまった。次に、燃料タンクが無傷だったこと。このお陰で、その日から残存艦艇が作戦可能な状態になってしまった。これが半分でも潰されていたら、この先少なくとも半年はハワイは軍事拠点として使えなくなっていたんだろう。また、太平洋にいた空母3隻すべてを撃ち漏らしたこと。このことが、アメリカに空母中心の戦略を立てざるをえなくさせてしまった。でもってこれがどうなったかは皆さん御存知の通り。そして最後に。南雲忠一を指揮官に任命したこと。これが一番大きかった。彼は魚雷屋で、航空戦には疎かった。魚雷戦の思想はどんなかというと、一発敵の向こう脛を蹴飛ばしたら、全速で逃げるというもの。当たろうが当たるまいが、そうしないと自分の身が危ない。従って、真珠湾の場合にも一撃を浴びせてすぐ引き返している。第2波出撃を參謀から進言されたにも関わらず。これで実際に第2波をやっていたら、あるいは日本は史実ほど惨めな負け方はしていなかつたろう。少なくとも、ミッドウェーの惨敗はなかった。素直にハワイ攻略が行なわれていたんだろう。

つまり、戦術的には大勝利だったが、戦略的にはいきなりコケていたわけ。でもまあ、そうやって考えてみると、日本が負けたのは山本五十六のせいかもね。彼はもともと政治畠の人間で、いわゆる前線のことには疎かった。でもってカード好きなことにも表われているように多分にギャンブルの人だったし。ブラフは冷戦には効くけど、実弾の飛び交う戦争はやれないんだよね。その点今のソ連は頭よかったネ。ウラジオなんかの衛星写真にあった軍艦、最近公開されてみたらほとんどスクラップ同然のボロ船だったもんね。

今、また自A隊を海外に出すとか、そういうことでモメてるよね？日本の武器は、今も昔もハッタリにしか過ぎないと思うんだけど……。その辺のことについて、休みで余裕が出た人は、考えてみたらどうかな？ソソはないと思うけど。

編 C 後記

岬：親父は昔から胃が弱いから、ちょっとバランスが崩れるともうヘロヘロになっちゃう。

困ったもんだやね。

香：事務屋が倒れると、ロクに仕事も進まない。提督さんて、ただいるだけじゃなかつたんだ。結構存在意義大きかったのね。

宇：↑……つたり前でしょ巡……提督の件では皆さんにご迷惑をおかけしています。励ましのお便りどうもありがとうございます。彼に代わってお礼申し上げます。

菊：申し訳ありませんが、胃炎に風邪を併発するというより悪い事態に陥つてしまつた為、今までの心労の分と併せて今年一杯気合い入れて休ませてもらうことにしました。

でもって、まだの人に忠告です。今年の風邪は胃にきますよ。

お手紙について

胃痛を和らげるため、現在、会長は空技の仕事から一切身をひいています。従つて皆さんのお手紙は開封せずに岬に渡されることになっています。彼に急ぎのご用がある方は、封筒の裏にその旨明記してください。

榛名とはるな

本居こじ・作

ACT. 7 The Storm. (Sec. 1)

少し雲行きがおかしくなってきていた。海のうねりが大きくなり、船のローリングもひどくなり始めていた。出港前に見た天気予報では、かなり大きめの低気圧が近づいてきているとのことだったが。まだ帰港指示が出るほどではなかったが、「大雪丸」の船橋では南雲が早くも頭痛を訴え始めていた。船酔いである。帰ろう。榛名は決めた。この調子では早いうちにもっと荒れそうだ。これ以上航海したところでなんのタシにもならない。

「今日はここまで」榛名は席から立ち、小さな机につかまってバランスを取りながら言った。ホッとした空気が船橋内に広がる。「左舷回頭130度。両舷機関、全速」

南雲は船酔いとは違う悪寒を覚えた。榛名が指揮をすべて普通の言葉ではあるのは、彼女が真剣になった時しかない。彼女は、机から取り出したスカウターをヘッドセットに取付け右目の位置に合わせている榛名を、自分のポジションである海図席から見守っていた。

それが終わると、榛名は艦橋正面の二つある旋回窓のうち左舷の方に立ち、窓枠に両手をついた。旋回窓は普通の四角い窓にはめこまれている丸窓で、その中心のモーターによって高速で回転されることで水滴を弾き飛ばし、多少の嵐の中でもある程度の視界を確保することができる。

彼女が主港までの時間を南雲に尋ねると、15分、とだけ答えてきた。その口調から榛名は南雲を少し頭脳労働から開放した方がよい、と見た。

「島津さん」彼女は操船担当に声をかけた。「あなた酔い易い？」

「いいえ、ぜんぜん」島津が即答する。

「じゃ南雲と交代してやって。海図コンピューターの使い方は知ってるわね？」

島津は無言でうなずいた。彼女にしてみれば、荒れる海上で船の進行方向を維持するので大らわなのである。榛名に促されて、南雲はよろよろと立ち上がった。そして机を頼りにして歩きだしたのだが……次の瞬間船橋の右舷側へ駆け寄り、窓から頭を突き出した。開いている窓からの波風の音に搔き消されて誰も何が起こったのかわからなかつたが、榛名には事情が察せられた。そばへ寄ってみると、案の定だった。

窓の桟に両手をついて体を支え、船外に乗り出している南雲の背をさすりながら、榛名は黒さを増してきた曇り空を見上げた。今にも大雨になりそうな気配だ。南雲の体が大きくびくん、とけいれんしたのが伝わった。見ると吐くだけ吐いた南雲が肩で息をしている。……また吐いた。

「ありがとう」南雲は静かに礼を言った。強まっている風に、その声もややもすれば消え入りがちだったが。「なんとか落ち着いたわ……それに少し動いた方が酔いも忘れるかもしれない」

「大丈夫ね？」

南雲が力なくうなずき生唾を海へ吐き捨てると、榛名は彼女に肩を貸して操船席へ連れていった。

「この分だとかなりがぶるわ」榛名は誰にともなく言った。「艦載機の発艦はまだOK？」

「できます」対空防御担当が即答した。「でも、たった今飛行停止指示が出たところなんです。飛ばせません」

榛名はうなって舌打ちした。艦載機があると、その分重心が上がる。復原性180度と言ってもそれは空荷の時の話で、余分な荷物があればその分数値は変わる。まして喫水線より上にある格納甲板に重い飛行機がやたらと積んであれば、悪くなるのは当然である。

榛名は再び左舷旋回窓に立った。スカウターのアダプターをジャックにつなぐと、再びそこに航法コンピューターからの情報が浮かんできた。今のところ進路はクリア一である。

やがて5分もすると、「大雪丸」はいよいよ大きくもまれ始めた。確実に波が荒くなっているのだ。持ち上げられ、次の瞬間に急激に沈み込むとかならず針路が狂っているので、その補正で南雲は酔う暇もなくなつた。

「居住区画の水密を再確認」榛名が固い面持ちで指示する。「飛行甲板は大丈夫？」

ただでさえ引っくり返り易いところに浸水でもしようものなら一大事である。まして船体最高部の飛行甲板の水密がしっかりしていなければ、もろに波が入り一発で沈没だ。島津が言うには一応大丈夫だった。ゆれはますますひどくなり、そのまま立っているのも困難な状態になってきていた。

「錨入れて」

アンカー

「アンカー入れ」南雲が復唱して二つある錨操作スイッチを下げ位置にした。錨を下ろすと多少操舵性がよくなるのである。

航空要員の待機しているキャビンにも、錨鎖の立てるザラザラという音は届いていた。

「主港に入ったのかな」森が言った。「そのわりにはまだ走ってるみたいだけど」

「まだでしょ」阿蘿が言う。「あと10分はかかるって」

彼女がスポーツ飲料のロゴが入った水筒をつくりつけのストローで吸うと、森が見とがめた。

「真理、ジュースなんか飲んだらよけい酔うわよ」

「これ？ 紀子も飲む？」阿蘿は飲むのをやめて彼女に放って寄越した。「……オールドのV S O Pだけだ」

「ウイスキー！」森は一気に飲み下してしまった。「そんなもん、どうやって……！」

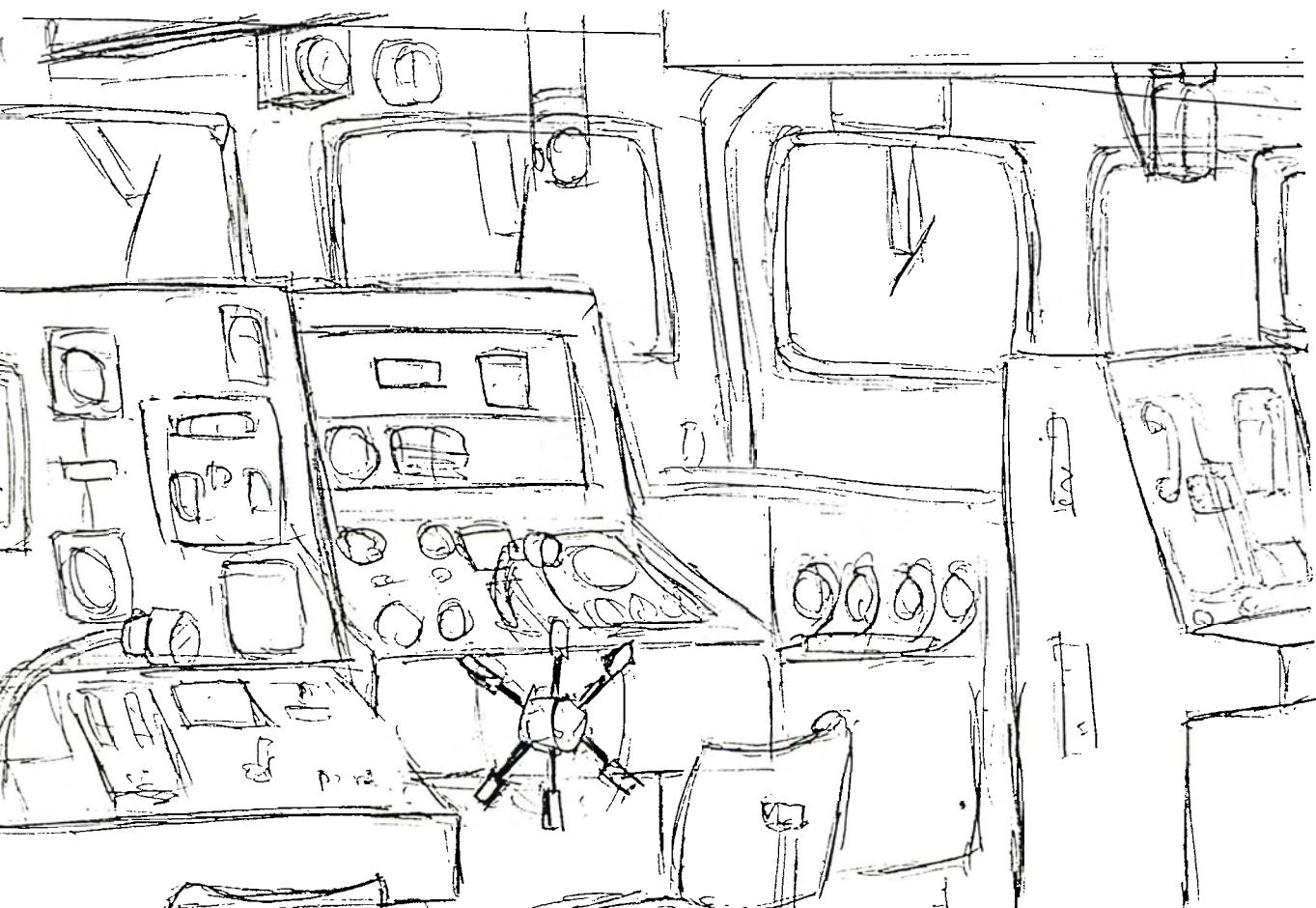
「烏龍茶に見せるの。大変だったのよ」阿蘿は意味深にウインクした。「買うのも大変だったけど。酔い止めの気付けには一番きくのよねエ」

「そう言やあんた、こないだも酒臭かった……」

森は呆れた、とでも言いたげに額を押された。そこにまた、一人割り込んだ。

「V S O Pだってえ？」早くも酔いが回っているようで、出来上がってしまっている。

「日本人だったらア、やっぱ日本酒じゃん？」



彼女は一升瓶をあおった。あろうことか、冷やのままでラッパ飲みしているのだ。「真理もさあ、そんなストローなんかでチビチビなめてないでえ、一杯やんなよお」

言いながら彼女が突き出した瓶を、阿蘿はおおきにとニヤけながら受け取つた。もともと日本酒独特の苦みは嫌いな彼女がお付合程度に口を湿して返すと、今度は森がからまれる番だった。

「紀子もやんなさいよお、そんなお高くとまんないで」

「わ、私？……いい、いい!!」森の声が上ずつた。「それよりもう止しといたら？隨分と顔赤いよ」

「なアに、私の酒が飲めないっての？この佐々木さんのお酒は飲めないって？」完全に絡み酒だ。彼女は一口あおって、続けた。「大体アンタ、いつだってそうなのよ。わかる？皆で盛り上がってつ時だってさあ、一人でさめててさあ……」

「わあったわよ」

森の目がすわった。彼女は言うなり瓶を引いたくり、立ち上がってグビリグビリとあおりだした。

「それ行け！イッキ！」

佐々木がはしゃぐ。だが、阿蘿や他のメンバーたちは、いつもと違う不気味に気配にシンと静まり返つた。……あれよあれよという間に瓶に残っていた五合ほどが空になる。おお、と低い歎声が湧き起る中で森はどっかと腰を下ろし、平然と告げた。

「おかあり」

船室は、まだ平和な方だった。

天気はいよいよ悪くなり、船首を越えて殴り付ける波で旋回窓の視界も確保し難くなつていた。第一防波堤、第二防波堤を抜けて完全に内海に入ったとは言え、風浪は1／72の彼らにとつてはかなりこたえる。

入信してきた通信に、通信係が顔を上げた。心なしか蒼ざめている。悪い知らせだ、と榛名は容易に予測できた。

「先輩」彼女は言った。「全船港内に入ったので、第一堤防が閉まります」

第一堤防が一番外側に位置していて、これを含んで4つの堤防が並んでいる。波が荒くなると船の流失を防ぐためもあって、これらの堤防が閉じられる。真っ先に閉まるのが第一堤防である。最後の船が内側へ入るに従つて、順番に閉められていく。いつまでも帰らない船があると、小型艇が出て教職員が連れ戻すことになっている。

「相當に荒れそうね」滅入る気持ちを抑えながら、彼女は前方の第三堤防の切れ目を確認した。「早いとこ済ませましょう」

「大雪丸」の前で、高校生が操艦する「ミナス・ジェイラス」型対潜空母が大きくもまれていた。

しばらくして「大雪丸」は第四堤防から少し離れたところ、船が比較的まばらになっている辺りで碇を下ろした。嵐は心なしかおさまりかける気配を見せ、風も一時よりは静かになつていた。——どうやら乗り切つたようだ。榛名は思った。

(A C T . 7 続)

